

もも・ネクタリン情報 No.1

令和5年3月7日発行



JAグリーン長野営農部・生産販売部・生産購買部
JAグリーン長野もも部会

◆生育状況については果樹総合情報を参照

◆当面する重点作業について

1. 剪定の見直し、枝片付け、誘引を実施する。
2. 日焼け防止対策を実施する。
3. 結実の良い品種から、摘蕾を計画的に実施する。
4. 発芽前（3月中旬）の薬剤防除実施が、遅れないよう注意する。

下記の過去の生育状況を参考にしてください。

果樹試験場の生育状況

川中島白桃	発芽	開花	満開
平年	3/30	4/18	4/24
令和1年	3/26	4/20	4/25
令和2年	3/19	4/15	4/26
令和3年	3/22	4/5	4/17
令和4年	4/4	4/17	4/24

篠ノ井東福寺の生育状況

川中島白桃	発芽	開花	満開
29年	4/1	4/16	4/21
30年	3/27	4/6	4/17
令和1年	3/25	4/17	4/23
令和2年	3/13	4/9	4/20
令和3年	3/13	4/6	4/16
令和4年	4/2	4/12	4/20

◆発芽期のかん水について

開花、結実、幼果肥大のエネルギー源は、貯蔵栄養（散布液肥）と土壌水分。

成葉のない春先は、**細根のそばに水が十分ないと吸われない。**

また、春先に干ばつになると、ほう素欠乏が発生し、発芽が遅れ、葉が細長くなり、小さく、葉脈間にクロロシスが発生する。花は開花せず落蕾するか、開花しても結実しない。

1. 3月：干天が30日程度続いたら、15mm程度のかん水を実施する。
2. 4月：干天が15日程度続いたら、30mm程度のかん水を実施する。
※10aに1mmのかん水には、水1,000ℓが必要です。よって樹冠下に集中して行へば効率的。
3. 特に**凍害・水害・せん孔細菌病を受けて傷んでいる樹へ**のかん水は十分に実施する。

◆第1回(3月中旬:発芽前)薬剤散布について

1. 散布日…3月16日(木)～23日(木)頃(発芽前) 実際散布日記入 月 日

2. 調合薬剤・量 …水88ℓ 当り

〔 スプレーオイル … 2ℓ (アブラムシ類・ウメシロカイガラムシ)
石灰硫黄合剤 …10ℓ (越冬害虫・縮葉病)

3. 散布量 …10a当り350ℓ 以上

4. 留意事項

①自園の生育状況をよく確認し、農薬登録、薬害(枝枯れ等)対策上、必ず**発芽前に実施**する。

発芽してしまうと、薬害発生や縮葉病への効果が劣る

生育が早まる場合は、散布日より早めに実施する。生育が遅ければ、散布は遅れてもよい。

②**春先は午前中でも風が強い。**

温暖無風で露のない時期を選び、枝先まで良く掛かるように手散布で実施する。

散布する前に、SSや動噴を一時間ほど陽に当てて、あたためておくとうい。

③**薬害(枝枯れ)対策として、低温時(朝・夕・一日低温等)には実施しない。**

水分が凍り、マシン油乳剤(スプレーオイル)の成分のみが残り、薬害につながる。

散布時期を逸した場合は、本年のマシン油乳剤は、実施を見送る。

④規定の水量を入れ、スプレーオイルを規定量入れ、希釈液を作り⇒石灰硫黄合剤を規定量加え、よく攪拌する。

⑤スプレーオイルに代えて、ハーベストオイル50倍(水88ℓ当り2ℓ)を使用してもよい。

⑥ウメシロカイガラムシの発生が無い園は、石灰硫黄合剤に代えてトレノックスフロアブル500倍(水98ℓ当り200ml)を使用してもよい。

また、**発芽してしまった場合は、薬害防止のため、トレノックスフロアブル500倍(水98ℓ当り200ml)に代える。**

◆摘蕾の実施について 《重要作業》

1. 摘蕾のねらい

①晩霜があるから摘蕾しないでは、適玉・高糖度のモモは取れない！

・貯蔵養分の無駄な消費を防ぎ、幼果の肥大・新梢の伸長・細根の発達を助けて葉枚数を早く確保する。

・生育成熟期間の短い、早・中生種ほど恩恵が大きく出る。特にあかつき、白鳳、なつっこ。

②摘果作業の効率化を図り、生理障害(核割れ・落果)の軽減をするため、重要作業。

・鈴なりの果実を一度に摘果して落とすと、生理障害の原因になるが、摘蕾では、影響が少ない。

・摘蕾⇒(花摘み)⇒予備摘果⇒仕上摘果⇒見直摘果と、順々に落とす。

2. 実施時期

①早い⇒効果高い・作業性悪い 遅い⇒効果低い・作業性良い・葉芽を傷めやすい。

②花蕾が丸く膨らみ、先端にピンク色の花卉が僅かに見え始めるころから開花までに行う。

③早くから実施すると、作業効率は低下するが効果は高い。

【表1】 摘蕾程度の目安

	強 ⇒ 弱			強 ⇒ 弱	
	老木	若木		弱	強
樹齡	老木	若木	せん定の程度	弱	強
樹勢	弱	強	核割れ・変形・生理落花	少	多
花粉量	多	少	施肥量	少	多
結果性	良	不良	凍霜害の危険性	少	大

3. 実施方法

- ①葉芽をきずつけないように薄い手袋をはめて行う。
- ②長・中果枝は、片方の手で枝の先端をつまみ、他の手で先端から基部に向けて、蕾をこすり落とす。
- ③親指と人差し指で軽く挟んで、上下の蕾をしごいてもよい。
短果枝は指先で枝をもむようにし、落とす。

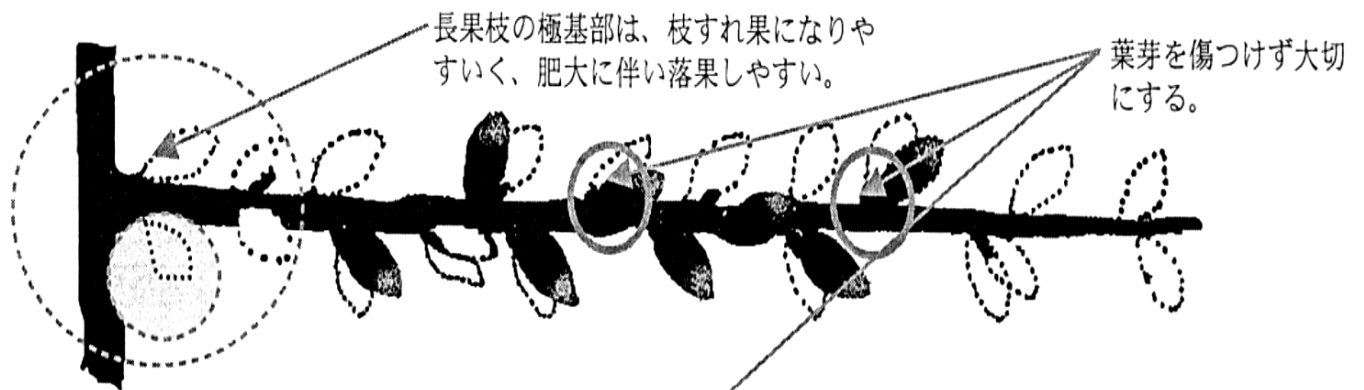
4. 品種別摘蕾の程度

結実が確保できる場合は、初期成育向上、玉肥大向上、核障害低減を目的とし基準より、「強い摘蕾」を実施してよい。

- ①樹勢の判断は、長果枝の割合が20%を越えるもの及び、徒長枝の切り口が目立つものは強いと判断する。川中島白桃はある程度落として、人工受粉を徹底する。
- ②全蕾の70～80%落としてよい品種…白鳳系・あかつき・なつっこ
- ③50～60%落としてよい品種…白根白桃・水野ネクタリン
- ④軽く落とす品種(毎年結実が安定している場合は、多めにおとしてよい)
…川中島白鳳・川中島白桃・黄金桃・メイブランド・フレーバートップ・ファンタジア・秀峰

5. 実施上の留意事項

- ①人工受粉用に採花する場合は、摘蕾の程度を軽くして残しておく。
- ②若木は樹形作りを第一に考え、主枝・亜主枝の先端部の蕾は全部落とす。特に主枝・亜主枝の延長枝は、側枝の先端も摘蕾し、垂れ下がり防止に努める。
- ③長果枝の基部15cm間の直上芽は、同時に芽かき(芽こき)して徒長枝の発生を未然に防止する。



30~60cm
 長果枝 中央部に6~8芽。葉芽のある節に残す。徒長枝は摘らいしないか、葉芽に1に対し1芽残す。



10~30cm
 中果枝 中央部に3~4芽

基部や上向きつぼみ中心に摘らいする。
 横向き~下向き花蕾を残す。

図1 結果枝別の摘蓄要領(基準)
 蓄を残す位置の目安
 ※強い摘蓄は、この半分を目安にする。



3~10cm
 短果枝 先端部付近に2~3芽 3cm以下の花束状短果枝は1芽のみ

先端しか葉芽がない。

図 結果枝別の摘りの程度 (岡沢原 平22)

《栽培に関する問合せ》

佐藤 (川中島・松代) : 090-7179-9866 / 外谷 (篠ノ井) : 080-8048-6602 / 福田 (若穂) : 282-2002
 丸山 (更北) : 080-1202-0260 / 根津 (信更) : 080-1203-8576 / 寺澤 (篠ノ井) : 080-1188-5229
 松坂 (全域・編集担当) : 080-1188-4131 / 営農部 (本所) : 292-0930

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所 / 生産販売部 (本所) : 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済課 / 農業資材課 : 299-3311